

大府市議会

議長 深谷直史 様

大府市議会厚生文教委員会

委員長 早川高光

報告書

～健康づくりについて～

平成29年5月

大府市議会 厚生文教委員会

1 はじめに

当委員会は、平成28年6月17日、健康づくりについて、市政の現状及び課題を把握し、政策立案、政策提言を行うため、所管事務調査として「健康づくりについて」の調査を行うことに決定し、以降、閉会中を中心に調査を行ってきた。

このたび、調査研究の成果を取りまとめたので、その内容を以下のとおり報告する。

2 「健康づくりについて」の調査研究結果の概要

(1) 「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例の制定について

当委員会では、健康文化部健康推進課による「新健康おおぶ21プラン」の勉強会の開催や大府市健康づくり推進員協議会及び大府市健康づくり食生活改善協議会との情報交換会を行い、大府市の健康づくりの現状及び課題を把握した。

また、10月には、市内保育園を視察するとともに、既に「健康づくり推進条例」を制定している神奈川県平塚市を訪問し、先進事例の調査を行った。

それらの調査研究を受け、当委員会では、子どもから高齢者まで、全ての市民が健康で活気あふれるまち「健康都市おおぶ」を実現するために、市民の健康づくりを推進する条例を制定するべきであるという認識で一致し、その制定に向け素案の作成を進めた。

素案が完成した1月には、市長が行う「パブリックコメント」の手法を参考に、市議会ホームページ等を通じて、条例案についての意見公募を実施し、同時に大府市医師団、大府市歯科医師会、大府市薬剤師会、大府商工会議所、市内の自治区、コミュニティ推進協議会、大府市健康づくり推進員協議会及び大府市健康づくり食生活改善協議会への条例案の説明を委員全員で協力して行った。

その後、更に内容の検討を行い、平成29年大府市議会第1回定例会に『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進条例案を提出することに決定し、定例会開会前には、委員全員で条例に関する記者会見を行った。

そして、平成29年大府市議会第1回定例会初日に、本会議における審議を経て、全会一致で原案のとおり可決され、条例が成立した。

本条例は、健康づくりの基本理念を明らかにするとともに、健康は個人のみで配慮すべきものではなく、地域や社会で共有されるべき有用な財産であるという認識に立ち、市民、事業者、地域組織、関係団体、市が一体となって、健康づくりに取り組むことにより、「健康都市おおぶ」にふさわしい市民の健康保持・増進を目指すものである。

条例の骨子及び施行期日は、次のとおりである。

『健康都市おおぶ』みんなの健康づくり推進条例（骨子）

（内 容）

前文 社会全体がそれぞれの立場で連携し、協力して、健康づくりを推進し、子どもから高齢者まで全ての市民が健康で活気あふれるまち「健康都市おおぶ」の実現を目指す条例であることを明示した。

第1条 条例の目的について規定した。

第2条 「健康づくり」、「市民」、「事業者」、「地域組織」及び「関係団体」の定義について規定した。

第3条 健康づくりの基本理念について規定した。

第4条 市民の役割について規定した。

第5条 事業者の役割について規定した。

第6条 地域組織の役割について規定した。

第7条 関係団体の役割について規定した。

第8条 市の責務について規定した。

第9条 健康増進計画の策定、評価、進行管理等について規定した。

第10条 この条例に定めるもののほか、必要な事項は、別に定めることを規定した。

（施行期日）

平成29年4月1日

(2) 子どもの健康づくりについて

平成28年11月に、東京都武蔵野市を視察し、子どもの遊び場（プレーパーク）について、先進事例の調査を行った。

視察後の委員意見交換会で、大府市の子どもの体力が全国平均より低いことについて問題提起され、このことは、将来的に心身の健康に不安を抱える人々が増えることへの危惧につながるとして、子どもの体力低下を健康づくりの課題として取り上げ、調査研究を行うこととした。

当委員会では、子どもの体力低下は、交通手段の発達、外遊びの減少、テレビ、携帯型ゲームなどをして過ごす時間の増加等、ライフスタイルの変化が要因であり、子どもたちが自然そのものとの触れ合い、自由な発想で自由に遊べる場や機会が減ってきていることが課題であると考え、プレーパークの設置について検討を行った。

また、平成29年3月には、市内NPO法人主催のプレーパーク説明・見学会に

参加し、近隣市町でプレーパークを運営しているNPO法人から説明を受け、その後、実際に運営している「おだいプレーパーク」を視察した。

ア 今後、本市に求められること

子どもの体力向上において大切なことは、「屋外での遊び」と「本質的な楽しさ」であり、子どもが外で体を動かすことを心底楽しいと感じたとき、自然と運動することが好きになり、運動する習慣へとつながっていくと考える。また、子どもは、遊びでの様々な体験を通して、人と人とのコミュニケーションの方法を覚え、心や社会性を育てていく。

当委員会では、心と体を一体として捉え、子どもの体力を向上させていくことにより、体のみならず、心の健やかな育ちを充実させていくことが必要であるという考えを基に、本市に必要な取組として、子どもが自由な発想で楽しんで遊べる環境をつくるため、プレーパークの設置について、次のとおり提案する。

(ア) 運営は市民との協働で行うこと。

運営は、市民との協働で行い、市がプレーパークの運営資金や場所を提供し、市民がプレーパークを運営する方法が望ましい。運営する市民には、乳幼児の保護者の集まりや、シニアを中心とした地域のグループ、授業としてプレーパークに関わった大学生グループなどが考えられる。

(イ) リスクとハザードの考えを理解し、運営すること。

運営に当たっては、「危険」について、「リスク」と「ハザード」の二つに分けて考える必要がある。プレーパークにおける「リスク」とは、子ども自ら、危険を予測、予見し、対処が判断できる状況を指し、「ハザード」とは、子ども自ら、危険性を予測し、対処できないものを指す。「リスク」は、どのように行動すると危険なのかを自ら学ぶ力を養うため、遊びの中に必要なものとして、残しておきたい。一方、「ハザード」は、子どもが安全に遊ぶために、大人が責任を持って、排除していかなければならない。

このような危険についての考え方を保護者等が正しく理解することが必要であるため、市としてこの考え方を周知していくことが望まれる。

(ウ) プレーリーダーとなる人材を確保すること。

プレーパーク開催時に、遊びのサポートをしたり、相談に乗ったりする専門の大人のスタッフが必要である。子どもの話し相手や、子どもの興味や関心を引き出すようなプレーパークの環境づくりができ、また、なぜ「遊び」が子どもにとって重要であるかを説明し、保護者等に理解をしてもらうように働き掛けることができる

人材を確保することが重要である。

(エ) **日常型と非日常型のプレーパークを整備すること。**

平日夕方に開催する日常型（まちなか型）と土日休日に開催する非日常型（郊外型）の両方を設置することが望まれる。

日常型は、帰宅後の子どもたちが気軽に立ち寄れる遊び場として、非日常型は、休日に親子連れで楽しめる遊び場として、より多くの子どもたちが集まる場所になると考える。

3 調査の方法

調査については、閉会中を中心に、市職員を講師とした勉強会、大府市健康づくり推進員協議会及び大府市健康づくり食生活改善協議会との情報交換会、市内保育園及び市外自治体への視察調査等を行った。

(1) **平成28年6月17日（金） 厚生文教委員会**

- ・ 健康づくりについて、市政の現状及び課題を把握し、政策立案、政策提言を行うため、所管事務調査として「健康づくりについて」の調査を行うことに決定した。
- ・ 本調査については、議長に対し、調査研究が終了するまで、閉会中の継続調査の申出をすることに決定した。

(2) **平成28年7月1日（金） 厚生文教委員勉強会（委員派遣）**

- ・ 委員6名全員で、健康文化部長、健康都市推進室長、健康推進課長を講師として勉強会を行い、新健康おおぶ21プランについて、委員間の認識の共有化を図った。

(3) **平成28年7月1日（金） 厚生文教委員意見交換会**

- ・ 健康文化部長、健康都市推進室長、健康推進課長を講師とした勉強会について各委員に所感を求め、委員間で意見交換を行った。

(4) **平成28年7月15日（金） 健康づくりに関する情報交換会（委員派遣）**

- ・ 委員6名全員で、大府市健康づくり推進員協議会の委員と「健康づくりについて」をテーマに、情報交換を行った。

(5) **平成28年7月20日（水） 厚生文教委員意見交換会**

- ・ 大府市健康づくり推進員協議会との情報交換会について、各委員に所感を求め、委員間で意見交換を行った。
- (6) 平成28年8月9日(火) 健康づくりに関する情報交換会(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、大府市健康づくり食生活改善協議会の委員と「健康づくりについて」をテーマに、情報交換を行った。
- (7) 平成28年8月18日(木) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 大府市健康づくり推進員協議会との情報交換会について、各委員に所感を求め、委員間で意見交換を行った。
 - ・ これまでの調査研究の内容を踏まえ、市政への反映、提言等について、委員間で意見交換を行った。
- (8) 平成28年10月24日(月) 市内視察調査(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、市内保育園の食育の取組について、調査を行った。
- (9) 平成28年10月31日(月) 市外視察調査(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、神奈川県平塚市の健康づくりについて、調査を行った。
- (10) 平成28年11月2日(水) 市外視察調査(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、東京都武蔵野市の健康づくりについて、調査を行った。
- (11) 平成28年11月15日(火) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 市内(終山保育園)、神奈川県平塚市及び武蔵野市への視察調査について、各委員に所感を求めた上、調査内容について、委員間で意見交換を行った。
 - ・ これまでの調査研究の内容を踏まえ、市政への反映、提言等について、委員間で意見交換を行った。
- (12) 平成28年11月30日(水) 厚生文教委員意見交換会
- ・ これまでの調査研究の内容を踏まえ、「健康づくりに関する条例(案)」について、委員間で意見交換を行った。
- (13) 平成28年12月14日(水) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 前回の厚生文教委員意見交換会に引き続き、「健康づくりに関する条例(案)」について、委員間で意見交換を行った。
 - ・ 条例について、各会派からの意見を聴取することを決定した。

- (14) 平成28年12月20日（火） 厚生文教委員意見交換会
- ・ 「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」に係る意見公募について、委員間で意見交換を行った。
- (15) 平成28年12月20日（火） 厚生文教委員会
- ・ 意見公募することを決定した。
- (16) 平成28年12月21日（水） 条例（案）に関する説明（委員派遣）
- ・ 委員3名で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」について、大府市歯科医師会に対して説明を行った。
- (17) 平成29年1月6日（金） 条例（案）に関する説明（委員派遣）
- ・ 委員3名で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」について、大府市医師団に対して説明を行った。
- (18) 平成29年1月10日（火）～平成29年1月31日（火） 意見公募
- ・ ホームページや公民館等において意見公募を行った。
- (19) 平成29年1月10日（火） 厚生文教委員意見交換会
- ・ 前回の厚生文教委員意見交換会に引き続き、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」について、各会派から提出された意見を含めて、委員間で意見交換を行った。
- (20) 平成29年1月11日（水） 条例（案）に関する説明（委員派遣）
- ・ 委員5名で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」について、大府商工会議所に対して説明を行った。
- (21) 平成29年1月13日（金） 条例（案）に関する説明（委員派遣）
- ・ 委員2名で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」について、大府市薬剤師会に対して説明を行った。
- (22) 平成29年1月18日（水） 条例（案）に関する説明（委員派遣）
- ・ 委員6名全員で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例（案）」について、大府市健康づくり推進員協議会に対して説明を行った。

- (23) 平成29年1月19日(木) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 前回の厚生文教委員意見交換会に引き続き、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」について、委員間で意見交換を行った。
- (24) 平成29年1月30日(月) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」に係る意見公募の状況について報告した。
 - ・ 条例(案)に係る想定質問の検討について、委員間で意見交換を行った。
 - ・ 条例(案)に係る記者会見について、委員間で意見交換を行った。
- (25) 平成29年2月1日(水) 条例(案)に関する説明(委員派遣)
- ・ 委員4名で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」について、大府市区長会に対して説明を行った。
- (26) 平成29年2月3日(金) 条例(案)に関する説明(委員派遣)
- ・ 「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」について、委員4名で、大府コミュニティ推進協議会及び北山コミュニティ推進協議会、委員3名で、東山コミュニティ推進協議会に対して説明を行った。
- (27) 平成29年2月6日(月) 条例(案)に関する説明(委員派遣)
- ・ 委員3名で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」について、石ヶ瀬コミュニティ推進協議会に対して説明を行った。
- (28) 平成29年2月8日(水) 条例(案)に関する説明(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」について、大府市健康づくり食生活改善協議会に対して説明を行った。
- (29) 平成29年2月9日(木) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 「(仮称)「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例(案)」に係る意見公募の状況について報告した。
 - ・ 条例(案)に係る想定質問の検討について、委員間で意見交換を行った。
 - ・ 条例(案)の提案理由について、委員間で意見交換を行った。
 - ・ 条例(案)の検討について、委員間で意見交換を行った。
- (30) 平成29年2月9日(木) 厚生文教委員会
- ・ 条例(案)の提出について決定した。

- (31) 平成29年2月21日(火) 記者会見(委員派遣)
- ・ 委員6名全員で、「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例案について記者会見を行った。
- (32) 平成29年2月24日(金) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (33) 平成29年3月11日(土) プレーパークの説明・見学会(委員派遣)
- ・ 委員5名で、プレーパークの概要について講話を聞き、東浦町内のプレーパークの見学を行った。
- (34) 平成29年3月14日(火) 厚生文教委員意見交換会
- ・ プレーパークの説明・見学会について、各委員に所感を求めた上、委員間で意見交換を行った。
 - ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (35) 平成29年3月27日(月) 厚生文教委員意見交換会
- ・ 委員間で意見交換を行い、報告書の内容について検討した。
- (36) 平成29年4月13日(木) 厚生文教委員会
- ・ 報告書の内容を決定し、本会議で報告することとした。

4 おわりに

今回の所管事務調査を通じて、当委員会では活発な協議が行われてきた。特に、条例制定に向けては、各委員が会派からの質問・意見を聴取し、それを委員会で議論、さらに会派に返すという過程を大切にしながら取り組んだ。

また、各団体に対して条例案に関する説明を行った際には、日程調整から当日の説明まで、委員全員が協力し合って、積極的に行った。各団体に対する全11回の説明を経て、委員全員が達成感を得て、とても爽やかな顔となっていた。

これらの過程で各委員は、何よりも健康に勝るものはないという認識を深め、条例を我が子のようにいとおしく思うようになったとともに、全ての市民に心も身体も健康で過ごせるようにと心から願った。委員によるこうした熱意が、常任委員会における調査研究活動を通じて初めてとなる条例提案につながったと確信している。

今後は、「健康都市おおぶ」みんなの健康づくり推進条例が後ろ盾となり、市民の健康に寄与する様々な施策が推進されていくことを期待している。

我々議員は、日々の活動において、市民福祉の向上にどのようにつなげるかを考えて行動しなければならない。そういう意味では、条例の制定がゴールではない。これからが、条例の目指す「健康都市おおぶ」を実現させるための新たなスタートであると強く感じている。

また、子どもの健康づくりについても調査研究を進めたところ、子どもの体力向上の一つの方策として、プレーパークの設置を提案するに至った。子どもが屋外で楽しみながら体を動かせる環境づくりは大切であり、遊びを通して運動することで、体のみならず心や社会性も健全に養われていくと確信できたためである。こうした遊びの中にこそ、現在、我が国の子どもが抱えている諸問題に対する解決の端緒となりうる、子ども本来の生きる力の育成を促進する可能性がある。

議会活性化の取組の一環で、平成25年から委員会でのテーマ活動が始まり、各常任委員会で取り組んでいるが、今年の当委員会のキーワードは、「みんな」である。委員が一つになって取り組むことにより、委員会の活性化及び委員の資質向上につながったと考えている。

今後も、「委員全員が一つになって委員会の活性化を進めていく」という思いで取り組んでいくことを誓うとともに、当委員会の調査活動に御協力いただいた全ての方々に、この場をお借りしてお礼を申し上げ、本報告書の結びとする。

厚生文教委員会委員名簿

(平成28年5月11日～平成29年5月11日)

役職名	氏名	所属会派
委員長	早川 高光	自民クラブ
副委員長	森山 守	日本共産党
委員	守屋 孝	市民クラブ
委員	木下 久子	市民クラブ
委員	日高 章	自民クラブ
委員	柴崎 智子	公明党

(備考)

正副委員長のほかは、議席番号順